

保護者の皆様へ

【子供にスマートフォンを持たせるということ ～便利さの裏に潜むリスク～】

近年のデジタル社会において、スマートフォン（以下、スマホ）は生活に欠かせない道具となりました。ある調査によると、中学生のスマホ所持率はすでに9割を超えているとも言われています。部活動の連絡や学習、友達とのコミュニケーションなど、中学生にとってスマホはもはや「あって当たり前」の装備となっています。それぞれの家庭のご事情や防犯上の観点からも、保護者の皆様のご判断でスマホを持たせることについて、学校が反対することはありません。

しかし、その手の中にある小さな端末が、一歩間違えれば「重大な事件の入り口」になり得るという危機感を、私たちは今一度強く持たねばなりません。近年、中高生を巻き込むネットトラブルは深刻化しています。



- SNSでの何気ないやり取りから発展する誹謗中傷やいじめ
- 「高収入」などの甘い言葉に誘われて犯罪に加担させられる「闇バイト」
- 見知らぬ大人とつながり、言葉巧みに誘導されて被害に遭う「性犯罪・児童ポルノ被害」
- オンラインゲームでの高額課金トラブルや、夜更かしによる生活習慣の乱れ（ネット依存）

これらは決して遠い世界の出来事ではなく、日常のすぐ隣にあるリスクです。中学生になり、行動範囲や交友関係が広がる一方で、精神的にはまだ未発達な部分も多く、トラブルの予兆に自ら気づくことは困難です。小学生の頃とは違い、中学生になると行動をすべて把握することは難しくなります。しかし、「買い与え、契約しているのは保護者である」という事実と、それに伴う責任は変わることはないのです。スマホを無条件・無制限に持たせるということは、運転免許を持たない子供に車の鍵を渡すようなものであるとお考えください。

お子様にスマホを持たせる、あるいはすでに持たせている皆様に、学校から切実なお願いがあります。

1. 「マナーとリスク」を具体的に教えること

「他人が不快に思う言葉は書き込まない」「自分の写真や個人情報は絶対に載せない」「知らない人からの連絡には応じない」といった基本を、繰り返し言葉にして伝え続けてください。

2. 「我が家のルール」をアップデートすること

「夜〇時以降は使用しない」「利用料金の範囲内で使う」「不適切なサイトを防ぐフィルタリングは必ず設定する」など、中学生の実態に合わせたルールを親子で話し合って決めるようにしてください。トラブルが起きてからルールを作るのでは間に合いません。

3. 持たせた後も「見守り」を怠らないこと

「スマホの画面を急に隠すようになった」「部屋にこもることが多くなった」「夜遅くまでスマホを見ている」など、変化のサインを見逃さないてください。定期的な確認と声掛けが必要です。

時に、「子供がスマホ関係のトラブルに巻き込まれたので、学校で指導してほしい」というご相談をいただくことがあります。もちろん、学校としても全力で対応し、情報モラル教育も継続して行ってまいります。しかし、家庭内での見守りやルールが形骸化したまま、問題が起きた時だけ「学校でなんとかしてほしい」では、根本的な解決には至らないということもご理解ください。

これからの時代を生きる子供たちにとって、情報活用能力は必要不可欠です。正しく使えば世界を広げる便利な道具ですが、誤れば凶器にもなり、被害者にも加害者にもなり得るということを忘れないでください。お子様が安全に、そして正しくスマホと付き合っていけるよう、使い方の指導や約束事の徹底、そして何より「家庭での毅然とした見守り」を、どうぞよろしくお願いいたします。